

地域おこし協力隊のふくしま散歩!



地域おこし協力隊
猪熊 矩剛

今年の冬は、例年雪の少ない東京都や福井県などで、数日に渡り交通障害が発生するほど全国各地で大雪に見舞われており、「※」南北海道」の函館市も平均の約3倍以上の積雪を観測するなど、厳しい冬に直面しておりますが、町民の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

突然ですが、毎月掲載しておりますこの「地域おこし協力隊のふくしま散歩!」のページですが、3ヶ月に1度の掲載へ変更となりました。町民の方々からは「読みやすい」など奨励の御言葉をいただき、活力になっていたため少し寂しい思いもあります。その分3ヶ月しっかりと活動し、より濃密な情報発信ができればと考えておりますので、引き続きよろしくお願ひします。

さて、協力隊の活動報告ですが、青函トンネル記念館の入り口に巨大な観光看板が設置さ

れたのはご存知でしょうか。函館方面から見ると岩部海岸の景色。松前方面から見ると「ふくしま歴史名所双六」。私はこの歴史双六の再編集を担当しました。ご存知の方もおられるとは思いますが、1995年に福島町商工会青年部が主体となり制作したもので、福島町史研究会、福島大神宮などの協力を得て、現代版に生まれ変わりました。広報もそうですが、万人が見やすいようにすることを念頭に作業し、例えば冒頭にあえて「※」南北海道」と記しましたが、町民の皆さんは「道南」の方が分かりやすいと思います。しかし、道外の方々には「道南」では当然伝わらないようです。こうした言葉一つで興味がわくのかかわらないのか、心理に差が出るようです。また、観光看板一つで観光客の増員は大幅に見込めなため、現代の技術力を利用するとすれば、通過型の観光から体験を含んだ滞在型の観光で増員に繋げるために、携帯電話一つで誰もが福島町を楽しめるような活用方法が必要かもしれません。どうやら観光看板は完成しましたが、私の仕事はまだまだ先があるようです。

役場からの お知らせ

小笠原先生が読売新聞社 都道府県医療功労賞を受賞!

2月3日(土)、小笠原内科消化器科クリニックの小笠原実先生が読売新聞社都道府県医療功労賞を受賞し、札幌市で表彰されました。

小笠原先生は、長年健康フェスティバルの実行委員長として、町民の疾病予防やABC検診・中学生のピロリ菌検査の早期導入に寄与されています。

また、渡島医師会の役員として20年余り道南の医療提供体制に貢献しており、平成25年には渡島医師会長に就任され、道南ドクターヘリの導入や胃がん予防対策に尽力されるなど、地域医療に対する功績が高く評価されたものです。今後、益々のご活躍をご祈念いたします。

《福祉課》

表彰状 北海道表彰 功労賞



▲表彰を受ける小笠原先生

福島町史研究会が 歴史文化賞を受賞!

2月16日(金)、函館市五島軒本店にて「函館の歴史的風土を守る会」主催の『第35回歴史文化賞表彰式』が行われ、約300名が出席する中、福島町史研究会が団体賞を受賞しました。

同賞は建造物の貴重性や歴史性、街並みへの波及効果等を基に選考されており、福島町史研究会は、「殿様街道探訪ウォーク」等を通して広めた当町の歴史や研究成果が高く評価されました。



▲表彰状を手にする福島町史研究会の中塚徹朗会長